

意見提出者	老テク研究会
1. 項目	福祉分野でのICT利活用促進を阻害するものは、総務省と厚生労働省との連携がないことです。既存の財団や学会がもっと指導力を発揮していただきたいです。
2. 既存の制度・規制等によってICT利活用が阻害されている事例・状況	<p>1 Lモード撤退を惜しみます。 2001年から数年NTT東西が提供したLモードサービスの失敗。NCC各社から長距離通信でNTT法に違反、不公正であると批判されました。 端末、通信料ともに高く、NTT中心で設計され、ネットワーク利用も非効率だったとか。NTTの傲慢な方針や、運営方法にも批判はあるでしょう。</p>
3. ICT利活用を阻害する制度・規制等の根拠	<p>しかし、パソコンは操作が難しく、携帯電話の小さい画面では、文字情報（デジタル情報）を扱いにくい高齢者、障害者には、大変ありがたいサービスでした。 もう少し、政府とNTTが連携・協力して、公共サービスや福祉分野への活用を検討していただけたらと残念です。厚生労働省と総務省との連携を促進するしくみは今後、さらに重要になると思います。そのためにも総務省とNTTの両者の不仲こそ、最大のICT促進阻害要因と思えます。</p>
4. ICT利活用を阻害する制度・規制等の見直しの方向性についての提案	<p>2 眠れる獅子 NTT - 人材育成のためにも NTT法を見直しては？ 私は30年前、電電公社時代から電話サービスに関わり、NTTに移行するさいのINS実証実験当時、電話会社各社の方を存じ上げていますが、昨年、オンライン申請サポート事業を通じてNTT東日本の方たちと、近しくお仕事をさせていただき、驚いたのは、民営化以前より固い頭の人ばかりで、さらに公社時代にあった公益性や、公共性の理念より、収益性を優先する姿勢ばかりが、目立ったことです。リーダーの方は傲慢な発言をされるわりに、批判されることばかりを恐れ、慎重すぎて、ガッツがありませんでした。残念。</p> <p>情報通信事業とは、人と人をつなぐ仕事の基本ですから、人間の心をわかる人材育成が大事なのに、NTTは30年前も今も、人間を機械の守人のごとく、扱っているように見えます。 今、巷の高齢者は、NTT関連会社から、地デジをNTTと契約せよとの訪問販売が、会社の名前をかえてやってくることに閉口している人も珍しくありません。悪徳業者すれすれです。</p> <p>こうした下請けの努力や制度で守られていては、本当に今後、利用者の要望に対応した、新しい、楽しい情報通信サービスなどNTTから生まれることは期待できません。他社が開発したサービスをまねして、後追いすれば利益がでるかもしれませんが、尊敬されません。今のNTTはまるで100年前の中国 眠れる獅子のようです。100年かけて作った国</p>

	民の財産である電話網。 賢く運用しなければ、もったいないです。
--	------------------------------------